

○Web サイトにオプトアウトする書式

大腸がん手術目的の患者における GLIM と SGA を用いた栄養評価の検討

○研究の概要

わが国における大腸がんの死亡率は年々増加しており、罹患率も大腸がんが上位を占めています。がん患者においては、しばしば栄養障害および代謝障害が生じており、これらの障害は予後を悪化させますが、適切な処置で改善されることが報告されています。Subjective Global Assessment (SGA) は日本で最も使用されてきた栄養評価ツールの一つでしたが、令和6年度診療報酬改定において、標準的な栄養スクリーニングを含む栄養状態の評価が求められ、評価方法としてGlobal Leadership Initiative on Malnutrition (GLIM) 基準が採用されました。本研究は、大腸がんの手術目的に入院した患者様において入院時 GLIM と入院時 SGA の低栄養診断と重症度が一致するかを検討すること、GLIM の低栄養診断別に退院後の療養場所に違いがあるかを検討することです。手術目的の大腸がんにおいて GLIM の低栄養診断と退院時の転帰（自宅退院、転院）が明らかになれば、入院時の栄養診断をもとに早期栄養介入につなげられるため、有益となる可能性があると考えます。

○研究の目的と方法

本研究の目的は、GLIM による診断結果（高度低栄養、中等度低栄養、低栄養なし）と SGA の分類結果（良好、中等度、重度）に関連があるか、GLIM による診断結果（高度低栄養、中等度低栄養、低栄養なし）と自宅退院及び転院に関連があるかについて検討することです。日常診療で得られたデータをもとに、統計分析を行う後ろ向き研究です。

○本研究の参加について

これにより患者様に新たな検査や費用の負担が生じることはありません。また、研究で扱う情報は、個人が特定されない形で厳重に扱います。皆様の貴重な臨床データを使用させていただくことにご理解とご協力をお願いいたします。本研究にご自身のデータを研究に使わないでほしいと希望されている方、その他研究に関してご質問がございます際は、末尾の問い合わせ先までご連絡ください。

○調査する内容及び対象者

本研究は、2023 年 8 月 1 日～ 2024 年 7 月 31 日の期間中、国立病院機構熊本医療センターに大腸がんの手術目的に入院し、管理栄養士が術前から介入を行った患者様における、術前の栄養評価結果、転帰（自宅退院および転院）などを対象としています。新たに試料・情報を取得することではなく、既存カルテ情報のみを用いて実施する研究です。研究終了後の収集したデータは、鍵をかけたファイルにて5年間保管ののち、破棄いたします。

○実施期間

研究対象期間：2023年 8月 1日 ～ 2024年 7月 31日まで

研究実施期間：倫理委員会承認後 ～ 2026年 3月 31日まで

○研究成果の発表

調査した患者様のデータおよび栄養管理室職員のデータは、分析・検討したのち、学会や論文で発表します。また、発表の際に、個人が特定されることはありません。

○研究代表者

国立病院機構熊本医療センター 栄養管理室 古川裕美子

○当院における研究責任者

国立病院機構熊本医療センター 栄養管理室 加來正之

○問い合わせ先

国立病院機構熊本医療センター 栄養管理室 加來正之

電話：096-353-6501